

奈弓連だより

通巻 185号

平成 29 年 7 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

全日本弓道選手権大会奈良県予選会

男子は吉本清巳、阪中計夫 女子は東中千佳、松村由喜子の各選手が奈良県代表に

第 7 回全日本弓道選手権大会奈良県予選会が 6 月 25 日（日）橿原公苑弓道場で開催されました。競技は近的 10 射で行われました。結果は次のとおりです。

最高得点賞

吉本 清巳 教士七段（布目）

成年男子の部

- | | | | |
|-----|-------|------|------|
| 1 位 | 綿松 昭寛 | 錬士六段 | （橿原） |
| 2 位 | 佐藤 峻 | 錬士五段 | （郡山） |
| 3 位 | 吉本 清巳 | 教士七段 | （布目） |

成年女子の部

- | | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 1 位 | 白井 礼子 | 錬士六段 | （錬弓会） |
| 2 位 | 原田 温美 | 五段 | （橿原） |
| 3 位 | 明瀬 綾子 | 教士六段 | （奈良） |

全日本弓道近的選手権大会出場選手

試合後、選考委員協議の結果、次の選手が選ばれました。

男子 吉本 清巳 教士七段（布目）

阪中 計夫 教士六段（橿原）

女子 東中 千佳 錬士六段（橿原）

松村 由喜子 錬士五段（奈良）

西田ゆり（競技部）

奈良県県民体育大会 市郡対抗戦

団体 男子 生駒市、女子 橿原市

個人 男子山口選手、女子前川選手が優勝

第 68 回奈良県県民体育大会が 7 月 2 日（日）に橿原公苑弓道場で開催されました。市郡対抗戦は 1 団体近的 2 4 射、遠的 2 4 射、公開競技は近的 4 射、遠的 4 射の合計的中数により順位を決めました。公開競技では熟年の部の方が多数参加して下さいました。当日は猛暑日で容赦なく太陽が照りつける中、遠的も近的も一人の棄権者も出さずに大会を終えられたことは良かったと思います。結果は次の通りです。

都市郡対抗戦

団体競技 成年男子の部

- | | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 1 位 | 生駒市 | 2 位 | 橿原市 | 3 位 | 香芝市 |
| | 監督 平野 | | 監督 衛藤 | | 監督 竹村 |
| 1 | 山口 | 1 | 宮島 | 1 | 岡 |
| 2 | 佐伯 | 2 | 中野 | 2 | 江澤 |
| 3 | 楠田 | 3 | 長濱 | 3 | 田中 |

昇格おめでとうございます

広島市で 6 月 28 日に開催された【中国地区】錬士臨時中央審査会において安住奈津子さん（郡山）が錬士に昇格されました。おめでとうございます。（事務局）

団体競技 成年女子の部

- | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 位 | 橿原市 | 2 位 | 奈良市 | 3 位 | 桜井市 |
| 監督 | 東中 | 監督 | 明瀬 | 監督 | 明崎 |
| 1 | 原田 | 1 | 松澤 | 1 | 吉岡 |
| 2 | 前川 | 2 | 長谷部 | 2 | 網本 |
| 3 | 長濱 | 3 | 西田 | 3 | 明崎 |

個人競技 成年男子の部

- | | |
|-----|------|
| 1 位 | 山口亮二 |
| 2 位 | 蔵地隆文 |
| 3 位 | 新子修平 |

成年女子の部

- | | |
|-----|-------|
| 1 位 | 前川なつき |
| 2 位 | 西田ゆり |
| 3 位 | 原田温美 |

公開競技 成年男子の部

- | | |
|-----|-------|
| 1 位 | 秋山和人 |
| 2 位 | 高嶋康司 |
| 3 位 | 角田圭一郎 |

成年女子の部

- | | |
|-----|------|
| 1 位 | 名手良子 |
| 2 位 | 前川和世 |
| 3 位 | 林瑠美子 |

熟年の部

- | | | | |
|-----|------|-----|------|
| 1 位 | 腰越和雄 | 2 位 | 徳田史郎 |
| 3 位 | 岡崎旦 | | |

西田ゆり（競技部）

奈良県教職員弓道大会

男子 井戸上選手、女子 深田選手が優勝

奈良県教職員弓道大会が 7 月 1 日（土）橿原公苑弓道場で開催されました。天気予報では「午前中は雨模様」となっていますが、幸いなことに、雨は降らず、さわやかな風が抜ける日となりました。高校の先生方は、ちょうど期末テストの時期と重なり、参加者は男子 12 名、女子 4 名のこじんまりした大会となりました。大会は個人一手 5 回の 10 射で競い、優勝は男女とも 8 中となりました。結果は次の通りです。

男子の部 1 位 井戸上博一、2 位 奥田章人、
3 位 平木一史、

女子の部 1 位 深田紀美子、2 位 平井摂子、
3 位 小西徳子

土谷尚敬（教職員）

小笠原流奉納行事の伝統を守る

奈良県弓道連盟副会長 教士七段 新司 正人

予備校時代に小笠原流に出会う

昭和 39 年、大学受験に失敗し、予備校に行っても受験勉強に身が入らず、空虚な時間を過ごしていました。そのような中、高校の部活でやった弓道を再びやりたいと思い立ち、巻藁を購入し、奈良県弓道連盟に加入の願いを出して、月 1 回の例会に参加させてもらいました。

当時の県弓道連盟は、伊藤登会長以下、指導者の先生はほとんど小笠原に入門しておられました。当初私は入門手続きもなしに、先生について来いと言われ、県内の小笠原流の奉納行事に諸役として参加していました。その後、京都の三原先生、県連会長の伊藤先生の取り立てで入門が許され、各地の行事に参加することになります。

行事の中で所作を覚える

行事の参加にあたっては、事前に特別な稽古などはなく行事の中で、足さばきや所作を覚えねばなりません。最初は随分と失敗を重ねましたが、次にはうまくできるようにと、本番直前までに尋ねたり、確認したりと不安な思いで参加していました。「失敗しても堂々とやっておればよい、その場の空気を乱さなければよい」と先生から言われ懸命に臨んでいました。

若いときは、衣装は伊藤先生の直垂、小素襖、烏帽子や沓など一式お借りしてましたが、回を重ねるに連れ、烏帽子や沓など購入し、また先生から“これを使っておけ”と頂くこともあり次第に道具も増えていきました。

18 歳で始めて、もう 50 年が過ぎました。振り返ってみますといろいろな思い出があります。下の写真は

昭和 56 年に実施された大津市皇子が丘公園弓道場の道場開きでの墓目式のもので、この時、伊藤先生の家紋「下り藤」の袴を私達介添え用に揃える必要がありました。しかし簡単に手に入りません。驚いたことに伊藤先生は唯一手に入る春日大社に掛け合い、春日若宮おん祭りの際に着る大切な袴を借りることになり、そして私が受け取りに行ったのです。

県内外の奉納行事に参加

奈良県内においては、1 月 4 日の大和（おおやまと）神社の弓始祭、2 月に橿原神宮においての建国記念を奉祝する百々手式、4 月には春日大社で百々手式が行われています。

県外では、近畿菱友会の会員として、京都では上賀茂神社、下賀茂神社、梨木神社、八坂神社、白峰神社、大阪では住吉大社、壺井八幡宮、三重では伊勢神宮、岐阜では南宮大社、徳島では大麻彦神社の行事に参加しています。

また、奉納行事の他、道場開きやお寺の棟上げ式における墓目の介添え等が印象に残っています。

伝統を守ること

小笠原流は、鎌倉時代より続く、弓術、弓馬術、礼法の流派です。小笠原家には「流儀を教えることで生計を立ててはならない」という家訓があり、現宗家小笠原清忠先生も、他に仕事を持ちながら、全国の門人と共に、流鏑馬や弓術、礼法の伝統儀式を全国各地で執行されています。もちろん私達門人も無償で奉仕させていただきます。

今ではお世話になった先生方もほとんど亡くなられ、残された私たちで、衣装・道具の確保、これら行

事の継続をしていかなければならない現状となってきましたが、いつまでも私達が元気でやれるわけがありません。今後、これら行事の承継をしてくれる人々が一人でも多く現れるよう古式弓道の魅力を伝えたいと思います。

ある時、先代のご宗家が、“伝統を守るということは、その行事に参加する事であり、特別なことをする事ではない“とおっしゃられ、その言葉で、私自身は参加出来るときはできるだけ参加しようと思い現在に至っています。



射手は伊藤登先生、介添えは増田美和栄先生、替弓持は岡田弘先生
太刀持は私です。

布目弓道大会

一般の部 新子選手、弓道教室の部 乾選手が優勝

6月10日（土）布目弓道場英明館にて、第23回布目弓道大会が行われました。参加者は一般の部93名、弓道教室の部1名でした。結果は次の通りです。

技能優秀の部 技能最優秀賞 吉本 凜香(布目)
技能優秀賞 松浦 瑠奈(布目)
技能優秀賞 新子 修平(五條)

一般の部

優勝 新子 修平(五條)
2位 中川 亨 (奈良)
3位 中井 達男(奈良)

弓道教室の部

優勝 乾 千尋(布目)



左から立射礼を行う上田教士、阪中教士、西中教士。



弓道教室の部で優勝の乾千尋選手



跳び賞の賞品を受け取り、大喜びの西中会長

片山万貴(布目)

布目弓道大会に参加して（回想）

当日は晴天に恵まれ初夏の汗ばむ暑さの中、審査いただきました先生方、長時間炎暑の中ありがとうございました。

私は、前日の設営応援から参加させていただきました

たが、運営の皆様方の御苦勞には頭が下がる思いで一杯です。大会当日も既に御役目の方々が準備を済まされており恐縮致しました。

私が所属する生駒支部会員の参加者は布目大会にて評価される点数を参考とし現状を踏まえ、射技の向上と審査を受ける指針とさせて頂いてます。多くの皆様の射技、体配を拝見させて頂くことで何か一つでも吸収できればと思っております。今大会におきましても 吉本清信先生をはじめ称号者の皆様、他支部の先輩方の射技を拝見させていただき 感慨無量です。また、自分一人の見取り稽古だけではなく周りにいらっしゃる方々のちょっとしたお話も非常に有益で、視点を変えた射技の見方を知ることとなります。時には目から鱗が落ちる話を聞く事もあり納得したような経験もしました。

大会後の懇親会は大きな楽しみの一つです。生駒支部は大会の参加人数も少なく、日頃から他支部の皆様とのお付き合いも少ない会員でございますが、お気軽にお声かけていただければ他支部との交流となりありがたいです。射会の経験も余り無く、今後も皆様の温かいご指導賜れば幸いです。また、来年も是非参加させていただきたく思っております。最後に、全ての布目弓道クラブの皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

原田雅行(生駒)

第2回伝達講習会

五段受講者は公認審判委員資格を取得

7月9日（日）今年度の第2回伝達講習会が開催されました。当日は暑い暑い日でしたが61名という大勢の受講生が参加して行われました。受講生は伝達事項、共通事項についての講義を受けました。

引き続き、審判委員資格のための弓道競技規則（28年4月1日改定）について説明を受け、その後検定試験が行われました。五段以上の受講者は公認審判委員資格を取得されました。ずっと座学で足が痛んだ方も多かったと思います。



公認審判委員資格のための検定試験を受ける受講者

野尻祥枝（指導部）

近畿指導者育成講習会に参加して 自分の課題を再認識し、正しい知識を再確認できた 貴重な2日間

6月17日～18日の2日間にわたり、和歌山県田辺市立弓道場で行われた「平成29年度近畿指導者育成講習会」に、奈良県より東中千佳、西田ゆり、乾 光孝、衛藤博史、松澤和実、そして私、松井優宜の6名が参加しました。この講習会は、全日本弓道連盟加盟団体並びにその地域における指導者の育成強化をはかるとともに、審査委員・審判委員・講師の公認資格の取得を主な目的においた講習会で主任講師に範士八段窪田史郎先生、範士八段小倉正樹先生をお迎えし、計36名の受講者で行われました。

1日目は、地方委員資格講習の座学から始まり、審査・競技関係規程や、公平、公正な審査審判能力や講師としての関係規程、指導力や事故防止、安全にかかわる知識、そして法令順守の認識確認等の講義でした。講義の中で窪田先生から、弓道教本1巻の審査規定の段、級位の資格基準に、「四段までは射”型”と書かれており、五段より上の段は射”形”とあるが、その違いは、「型」は鋳型の型であり、決まったことをきっちりとできているかという観点、「形」はその個人個人がもつ射からにじみ出る魅力という観点であるという話があり、興味深く感じました。1日目の最後に一手行射を行い、2日目の個々の体配、射技の課題を確認しました。

2日目は平成29年度指導方針を踏まえた上で、持的射礼、一つの射礼を行いました。受講生同士が班を作り、講師の先生方が個々に指導した事柄を受講生が決められた用紙に書き込むことによって、指導を受けた内容がわかると共に、同じ班の受講生の感想、意見も聞くことができ、大変有意義な実技研修となりました。

私は小倉先生より着付けとまばたきの多さ、大三での手の内の決め方と手の内の工夫について指導を受けました。着付けに関しては、胴造り時に弓の本弰が

袴の間に入るのは着付けの仕方が悪いと、帯の上下に袴の紐がくるように着付けると袴の前のひだが広がらず、本弰が袴のひだに入りにくい。まばたきは半眼で物を見る訓練を怠らないこと、半眼で見る事により瞳に渴きを覚えにくくなる。大三では、手の内をしっかりと会に入った形まで調える。そうすることで弓手の肘からの引分け動作の意識を強くできるとのことでした。ここで、小倉先生から握り落ちを少なくできる手の内の実技指導が行われましたが、私自身もまだ上手く出来ていないので道場で修練していきたいと思いました。

講師の先生方のご指導中、基本動作の中で決まった事はしっかりと行うことと、息合いの重要性を常に説かれましたが、受講生の仕上げ行射（講師検定試験）の後の講評で「素晴らしい行射で、これを続けていく事こそ大切です」との言葉をいただきました。自分の課題を再認識し、正しい知識を再確認できた貴重な2日間となりました。

まだ結果は全然出せてはいませんが、結果が出せるように日々の鍛練を忘れず、頑張っていきたいと思えます。今回の講習会に参加する機会をいただいた事にお礼申し上げます。ありがとうございました。

参加者代表 松井優宜（郡山）

編 | 集 | 後 | 記

副会長の新司先生に「小笠原流奉納行事の伝統を守る」と題して随想を書いていただきました。伝統を守るために、小笠原流宗家そして門人の方々が無償で奉仕されていることをあらためて認識しました。今回提供いただいた写真には、当時の奈良県連で指導的立場にあった先生方のお姿が写っており、懐かしく見させていただきました。

近畿指導者育成講習会の参加報告では、講師からの貴重な指導内容が具体的に記されおり、参考になります。

編集担当 野尻賢司